

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2779101241		
法人名	医療法人 遊心会		
事業所名	リ・リブホーム I		
所在地	大阪市淀川区西中島6丁目11番31号 レーベネックス4F		
自己評価作成日	平成 28年 4月 11日	評価結果市町村受理日	平成 28年 7月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=2779101241-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 28年 5月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした環境の中で、個性性を尊重したケアを常に心がけています。外出の機会を出来るだけ多く設け、日々の生活に生きがいや楽しみを見つけて頂ける様支援しています。法人内のクリニックとは密に連携をとり、医療面に於いても安心して生活できる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

精神医療を中心に地域に貢献してきた医療法人が、地域の時代のニーズの変化に応えようと設立したグループホームです。理事長の思いは、ホームの名前に込められ、Re(もう一度)とLive(生きる)＝新しい暮らしの再建に向けて、職員も一緒に歩み暮らすことを大切にしています。その思いは、職員に理解・共有され日々の支援に浸透しています。玄関には鍵をかけず自由な雰囲気、学生時代や近所の友人・知人など多くの訪問者があります。ホームでは外出や行事にも力を入れており、水族館・博物館など希望の場所への外出や外食等の機会が多くあります。また、近隣の散歩は日常的なものになっています。法人内のクリニックとの連携もあり、安心して生活できる環境です。管理者・ホーム長が、職員を信頼していることで、職員の士気が高まり、創造性を発揮しながら利用者を支える暮らしは、生き生きとした利用者や職員の表情からも伝わってくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で話し合い作り上げた運営理念は、「こ」「け」「し」＝「個性」「傾聴」「信頼」の三本柱を軸に、笑顔で楽しく毎日が過ごせるような援助を忘れないう様リビング内に掲げている。	「こ」「け」「し」＝「個性」「傾聴」「信頼」を三本柱に、利用者の尊厳を大切にしながら、生き生きと輝く、笑顔あふれる生活が送れるよう支援しています。ホーム創設者の理事長の思いはホームの名前に込められ、Re(もう一度)とLive(生きる)＝新しい暮らしの再建に向けて、職員も一緒に歩み暮らすことを大切にしています。その思いは、職員に理解・共有され日々の支援の中に浸透しています。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会や地域の盆踊り、文化祭等、季節の行事には必ず参加し、近隣との交流を図っている。又、ホームで行事を行う時には民生委員さんや社会福祉協議会の方を通じて、地域の方々にも声をかけ気軽に参加出来る様働きかけている。	地域との交流には積極的に取り組み、地域の行事に参加しています。小学校で開催される盆踊りにも参加し、利用者は楽しいひとときを過ごしました。毎年開催する母体法人主催のリ・リブ祭りには、民生委員を通じて地域に働きかけを行い、近隣住民も参加しています。利用者が日常的に通う、喫茶店・スーパー・美容室では、利用者へ配慮をしてもらおう等、認知症への理解が広がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	法人内の高齢者支援室と常に連携を図り、地域内の方々への情報発信や支援に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告だけでなく、ホーム内の行事に参加して頂く事で、より生きた意見を聞けるようになってきた。会議にはスタッフも可能な限り参加し、頂いた意見をサービス向上に生かせる様に努めている。	家族・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加により開催しています。「リ・リブだより」に、運営推進会議の報告と家族への呼びかけを載せています。家族が参加しやすい状況を把握するため、アンケート調査も行いました。年忘れクリスマス会に合わせ会議を開催する等、家族により多く参加してもらおう工夫をしています。会議で出た意見は、ホームのサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の保健福祉課とは普段から連絡を密に取り合い、紹介や相談などを通じて協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、ホームより運営状況や取り組み等について伝えていきます。また、地域包括支援センターとは日頃から情報交換を行い、何かあれば相談をするなど連携を深めています。区の保健福祉課とは、担当者がホームを訪問したり、こちらから出向いて相談するなど連絡を密にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践として、開所以来日中の施錠はしていない。各フロアには「身体拘束ゼロに向けて」のリーフレットを常置し、職員がいつでも確認し意識出来る様にしている。	ホーム長が、「ホームの自慢は、施錠をしないこと」と言われるように、日中は玄関・エレベーターを開錠し、自由な暮らしになっています。職員間でも施錠をしない自由な暮らしが当たり前で、身体拘束は考えられないという職場風土です。スピーチロック(言葉による拘束)となる言葉遣いにも気をつけています。 最近ニュースになった、施設での高齢者虐待についても話し合う機会を設け、改めて虐待防止について確認しました。	自由な暮らしが当たり前になっていますが、利用者の尊厳を確認する意味でも、身体拘束についての研修の開催が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やホーム長、主任は入居者の状態に常に注意を払っている。又、虐待を疑うような事例を発見した時は直ぐに報告、対応できるように勉強会やカンファレンスの中で話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の先生方とは密に連携をとり、気軽に相談したり、教示頂いたりできる関係にある。必要に応じてご家族様からの相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前、入居後とも十分に時間を設け、契約内容を丁寧に説明する様努めている。 改訂時は文書で案内するとともに、電話や面会時にも説明し、了承を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時、苦情担当窓口の設置やご意見箱の利用などについて説明している。面会簿にはご意見欄も設けて活用し、職員とも気軽に話せる雰囲気作りにも努めている。</p>	<p>職員は日頃から利用者、家族との会話を大切にし、声かけを行っています。職員との会話を楽しみにしている家族もあり、職員は会話から思いを受け止めています。利用者からの希望で、一人での外出を支援した例があります。 運営推進会議には、利用者や家族が参加し、意見や要望を聞く機会になっています。 ホームでの生活状況が伝わる写真入りの「リ・リブだより」を定期的に発行し、家族にも送付しています。理事長の「医学豆知識シリーズ」も好評です。 意見箱を常設し、様式の工夫や、面会簿にコメント欄を設けていますが、意見が上がってこないのが現状です。</p>	<p>家族の意見、要望を聞くひとつの方法として、具体的なテーマを決めてみてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行う職員面談やミーティングで提案の機会を設け、反映出来るように努めている。	ミーティングや、2カ月に1回の職員が進行する「リ・リブの声」で職員の意見や要望を出し合っています。管理者・ホーム長が職員を信頼していることが、職員の士気を高め、創造性を発揮できる職場環境を作っています。職員は、「上司のおかげで失敗を恐れず仕事に向かうことができる」と感謝しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休み希望には可能な限り対応している。 昇給も年毎に検討し、常勤、非常勤に関わらず、様々な役割をもつことで向上心をもって働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホーム内の研修には、出来るだけ多くの職員が参加出来る様にしている。 院外研修も可能な限り参加の機会を設け、ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホーム連絡会や、職員勉強会に参加し、交流の機会を作っている。法人内ドクターによる勉強会の開催や他のグループホームと交流を図り、サービスの向上への取り組みに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはホームの見学や自宅訪問等をして、不安や要望を安心して相談できる関係性作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や自宅訪問時だけでなく、入所時にも不安や要望をしっかり聞き、安心して相談できる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を把握し、必要に応じて他のサービスの利用も含めた支援と一緒に考えて支援出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者お一人お一人の状態や生活歴を職員間で共有し、ホームでの生活を楽しみ、出来る限り自立した生活が継続出来る様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時には、ご本人の日々の様子を必ず伝える様にしている。行事のある時には事前に案内し、ご家族、入居者、職員みんなで楽しめる関係性を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も年賀状や暑中見舞いを送る支援をしている。ホームはいつでも気軽に訪ねて来れる雰囲気を作り、親戚や友人との関係を継続出来る様に支援している。	以前住んでいた家の近所の友人や、学生時代の友人が訪ねて来ることがあり、利用者は前日からお菓子やお茶を準備し、訪問を楽しみにしています。 地域の行事に参加する事で知人に会う事もあります。また、従来からの趣味を活かし、作品をフリーマーケットに出品している利用者もあり、職員は馴染みの関係や生活が継続できるよう支援しています。 近く的美容院やスーパーでの買い物等で、新しい馴染みの関係もできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性はいい時も悪い時も状況の把握に努め、共同生活が円滑に過ごせるよう支援している。定期的な食席の変更等も、関係性の広がりの方を続けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の支援は勿論の事、その後も必要に応じた支援を継続し、関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話やカンファレンスの中で、ホームでの生活の希望や要望を把握し、職員間で共有し、出来る限り対応できるよう努めている。	入居時の面接で、一人ひとりの生活歴や思い・希望など丁寧に聞き取り、職員間で共有しています。日常の関わりの中での気づきや発見は、介護計画更新時のモニタリングで確認しています。また、気づきノートに記録し、日々の支援に活かしています。 ホームの理念のひとつである「個性」を尊重した利用者の暮らしを支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には担当ケアマネとの情報交換をし、本人やご家族からもお話を聞く時間をしっかりとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子は記録に残し、職員間で共有している。カンファレンスやモニタリングを定期的に行い、状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者やご家族から生活等に対する意見や希望をモニタリングしケアプランに反映させている。 職員へのモニタリングやカンファレンスで出た意見を元にアセスメントを行い、ケアプランを作成している。	介護計画の見直しは原則6カ月に1回行っています。介護計画と実施記録を一つにしたファイルを作り、職員は介護計画を理解した上で実施しています。モニタリングは居室担当職員が行い、利用者にも聞き取っています。利用者の気持ちを聞きやすいシートを作っています。モニタリングを基にカンファレンスを行っています。カンファレンスに参加できなかった職員へは、会議録を供覧し情報を共有しています。 計画作成担当者は介護計画作成にあたり、「本人が何を望んでいるか」「チームでつくる計画」を心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はリーダーが取りまとめて記録し、夜勤帯は夜勤勤務者が記録している。申し送りを確実にし、記録の確認後はサインし、情報の共有に努めている。ケアプランの更新時には、記録はモニタリングの一つとして活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携、訪問看護などを利用し体調管理や急変に迅速に対応できる環境にある。ご本人の状態や希望に応じて、通院や送迎等、必要な支援に柔軟に対応できる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや喫茶店、美容院等は近隣のお店を利用し、馴染みの関係が出来る様努めている。運動会や地域行事への参加も継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医は法人内の医師となっているが、専門科受診は入居者やご家族の希望を優先している。 複数の医療機関との連携もあり、適切な受診が出来る様支援している。</p>	<p>入居時に通院や医療体制について説明し希望に応じています。利用者はホームの協力病院や従来のかかりつけ医を受診しています。 複数の医療機関との連携があり、受診時は職員が運転や付き添い等を行い通院の支援をしています。 母体が医療法人であり、院長は毎日ホームを訪れ、利用者の状況を把握しています。夜間は院長に直接連絡出来る体制にあり、利用者、家族、職員の安心に繋がっています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内の訪問看護と契約し、日々の健康管理や医療的処置など必要な援助を受けられるように支援している。 受診のタイミングや看護のアドバイスを気軽に相談する事も出来る。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域医療連携室には、受診や入退院時は相談をし、安心して治療できるように支援している。 担当医師や看護師との面談の時間を確保し、適切治療を受け早期に退院できる支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの受け入れはしていない為、終末期の対応指針を定め説明している。ホームでの生活の継続が困難な状態になった時は適切な医療機関や施設との連携をし、入居者とご家族が安心してサービスを継続出来る様支援している。	ホームの考えである、Re(もう一度)とLive(生きる)＝新しい暮らしの再建に向けて支援するケアを大切に、ホームでの看取りケアは行っていません。利用者・家族には入居の際に説明しています。ホームでの生活の継続が困難な状態になった時は、適切な医療機関や施設との連携をし、利用者・家族が安心してサービス利用を継続できるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救命救急研修を定期的の実施している。ホーム内にはAEDと救命応急セットを備え、使用法などは研修で実践勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、法人全体での避難訓練を実施している。 地域の防災訓練にも参加し、情報の共有を図っている。	消防署の協力により利用者全員を交えた避難訓練を実施しています。また、地域で開かれる防災訓練に職員が参加し協力体制を築いています。 地震発生時のとっさの対応や備蓄の消費期限のチェック、防災カーテンの導入など日常対策に配慮しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩として尊敬し、尊厳とプライバシーを守れるよう努めている。 ミーティングでは言葉遣いや声かけ等について話し合い、職員間で意識確認している。	ミーティングでは「言葉遣い」のほか、利用者の表情や行動から気持ちを読み取りプライバシーに配慮することを勉強しています。 管理者・ホーム長は職員と利用者間の会話に耳を傾け、不適切な対応があれば助言指導を行うなど日常の中で改善を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者の様子などから、希望や思いを汲み取り、それを伝える事が出来るような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ディケアやレクリエーションの参加は体調を見ながら促し、入居者自身が選択出来るよう支援している。 日々の生活は入居者の希望を優先しその人らしい生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院は近隣の馴染みの所へ希望に応じて行けるよう努めている。 好みの洋服を選び、化粧をするなど、いつまでもおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の簡単な準備や、配膳、片付けなどその人が出来る事を無理せず一緒にしたり、外食や出前、ランチバイキングなど、楽しく食事が出来る様工夫している。	副食は、調理済みの物を業者に依頼し、ご飯と汁物はホームで準備しています。献立を見て、ホームで1品つけ、より美味しく提供する工夫をしています。屋上の菜園で利用者が育てた野菜も材料に使っています。日曜日の夕食の調理専門の職員による食事の提供は、利用者に大変好評で、利用者は楽しみに待っています。 外食やランチバイキング、おやつレク等、食事を楽しんでもらう工夫を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスやカロリーの計算されたものが専門業者より宅配され、摂取量を記録している。状態に合わせて水分摂取を介助し必要に応じて摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人に応じた介助をプランに組み込んでいます。定期的な口腔ケアや、急なトラブルの為の通院にも柔軟に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、出来るだけトイレでの排泄が継続出来る様支援している。	基本はトイレでの排泄です。排泄表を見ながら、職員は随時声かけし誘導しています。声かけはさりげなく利用者の気分を害さないように配慮しています。各居室にトイレが設置されているので、安心して排泄することができ、自立に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操の時間を設け、それぞれの状態や体調に合わせて無理せず継続出来る様支援している。 又、朝食時には牛乳やヨーグルト、フルーツを用意し、自然な排便に繋がる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は、基本の設定があるが、入居者の体調や希望に合わせて柔軟に対応出来る様努めている。 又、異性介助には配慮し、安心して入浴が楽しめるよう支援している。	基本的には、週3回の入浴日の設定ですが、希望があれば毎日入浴できます。 入浴を好まない利用者には、無理強いすることなく、タイミングをずらしたり、声かけの工夫などで安心して入浴してもらう支援を行っています。シャンプーは一人ひとり好みのもを使っています。また、できる限り同性介助の支援を心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は、入居者やご家族と相談し、安全かつ安心できる生活空間になる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、個人ボックスにセットするまで、二人の職員によってチェックし、服薬時もダブルチェックしている。個人処方薬ファイルは、職員全員がその内容、効能、副作用を把握確認し、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人内のデイケアに通所し、毎日の生活に生きがいと楽しみを持てるよう支援している。 買物や、散歩、外食などにも柔軟に対応出来る様努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して外出の機会を多く持てるよう努めている。 様々な場所への外出レクリエーションを年間通して計画し、地域の行事にも出来るだけ参加できる様努めている。	利用者は職員が持ち回りで企画した海遊館や動物園、花見などに車で出かけています。ほぼ毎日、同法人が運営する隣のビルのデイケア(介護保険対象外サービス)に通って1時間ほど過ごすほか、前もって決めた外出だけでなく、天候や気分で出かける外出は、日常的な光景です。近隣の協力を得て自由に近くの公園や喫茶店、コンビニへも出かけられるよう支援しています。 個別の希望に応じて商店街や風呂屋、映画館へ出かけた事例があります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で預かり、必要時や希望時は自由に使える様支援している。自身で財布を持ち管理し、支払いをするなど、入居者の状態に合わせて支援出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の使用は、入居者、ご家族の希望に合わせて対応している。 希望時は電話をかけたり、はがきや手紙を出すなどの支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、くつろげるように配慮したソファを置き、壁の飾りや季節の花を置くなど工夫している。 家庭的な雰囲気を大切に、入居者が安心して生活出来る様支援している。	ガラス扉をはさんでエレベーターホールの前にある食堂兼居間は、明るく開放感があります。壁には皆で作った季節感あふれるクラフト作品や、一人ひとりコメントを付けた笑顔弾ける写真などを飾って活気ある雰囲気づくりに努めています。エレベーターホールではバーベキューをすることもあります。 7階の屋上庭園では園芸や外気浴が楽しめます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階エレベーターホールにはウッドチェアを置き、煙草を吸ったり、外気に触れながら季節ごとに咲く花に水をやったりしている。リビングでは思い思いの席でゆっくりとくつろぎ、自分なりの時間を過ごせる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、永年使用した馴染みの家具や、使いやすい家具を入居者に合わせて配置し、安心して生活できる様支援している。	居室にはエアコン、ベッド、クローゼット、下駄箱、トイレ、洗面台、カーテンを完備しています。 利用者は好きな家具やテレビ、仏壇を持ち込み自由に過ごしています。文机を置いて趣味のぬり絵を楽しむ利用者もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室をはじめ、リビング、廊下、浴室、トイレには手すりを設置し、自立した安全な生活が出来る様、工夫している。 居室床はクッション性のあり、抗菌仕様になっている。		